



高齢者の 栄養補助のあり方

「先生、お母さん、全然食べられなくなったんだけど、これくらいなら大丈夫という量とか教えてくれませんか？」という相談がときにあります。



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

こういった患者さんは「一切れならば何とか…」が、ありました。そこでは、老衰や病気の終末期にある「パニアアイススプーン」患者さんにカステラを提案する方が割合に多いで「一口なら何とか…」とい供したり、さらにカロリースマートフォンのアプリです。こういった方の必要う感しで、つまり味の濃リーを上げる目的では力でのカロリー計算もできカロリー量は1500⁺、い食品を少量好み、それステラを牛乳を浸したりするようにしています。カロリー前後/日になる以上は難しいことが経験して、飲み込みもしやすこういったテクノロジーが多のですが、体的に分かっていました。くしたりと工夫しているや他職種とも上手に協働が痩せ細り、物を噛み、た、それだけでは足りないので、私のほうがでへなるほど、こういった大切ですが、日頃の患者物の飲み込みが落ちていりないで、私のほうがでへなるほど、こういった大切ですが、日頃の患者る方に勧めるのは、患者ら、高カロリーの栄養剤方法をあるんだな」と思さんの食事に携わる人がさん負担が強いのかと患いました。カステラは一関心を強く持てば、たくさん頃思っています。者さんの好きな物を食べ切れ150⁺カロリーとさんの知恵が出るのでは、実際に患者さん、ご家族から話では、「鰻を助言をすることがままあし、牛乳には脂質が入るような状況で、何か他にいて浸せば飲み込みもに良い方法はないかなと思っていました。の組み合わせの工夫で、そんななか、ある大学患者さんの食に介入できる病院の研究会でがん末期の機会は生まれるんだなの方での栄養療法の講演と改めて思いました。

[まつばらホームクリニック]
☎042-439-1250
matsubarahomeclinic@gmail.com
西東京市東町 4-14-18-2F
■電話対応:午前9:00~午後6:00
■定休日:土日(祝日は診療)
■訪問地域:西東京市、東久留米、
新座・練馬の一部



まつばらホームクリニック 検索